

# 土研 新技術セミナーのご案内

日時 平成22年2月8日(月)

13:00~16:25 (受付 12:30~)

会場 総評会館

402会議室(4階)

参加費無料

定員 50名

土木学会認定  
CPDプログラム



本セミナーは、土木研究所の新技術のうち、コスト縮減や工期短縮等の効果が高く、活用のニーズが高いと思われるものについて、セミナー形式で新技術が開発された背景も含め、新技術の技術情報について講演を行うものです。

## プログラム

13:00~13:05 1. 開会

2. 鋼橋の長寿命化のための塗装に関する技術

序論「鋼道路橋塗装・防食便覧と長寿命化技術」

13:05~15:05

新技術セミナー①「インバイロワン工法」

～環境負荷や廃棄物量を低減、コストを縮減させた鋼構造物塗膜除去技術～

新技術セミナー②「チタン箔を用いた鋼橋長寿命化技術」

～塗膜の弱点部をチタン箔で補強する防食性向上技術～

(休憩)

3. 狭隘な現場で施工可能な杭基礎技術(マイクロパイル工法)

15:20~16:20

序論「狭隘な現場で施工可能な杭基礎技術(マイクロパイル工法)」

新技術セミナー③「NEW高耐力マイクロパイル工法」

～支持力を向上、コストを縮減、工期を短縮させた杭基礎技術～

16:20~16:25 4. 閉会

## 申込方法

●土木研究所ホームページよりお申込み下さい(～2月5日)。

<http://www.pwri.go.jp/jpn/news/2010/0208/seminar.html>

●定員になり次第締め切らせて頂きますので、お早めにお申し込み願います。

●受付にて、申込み時の返信メールのコピーをお渡しください。

## 定員

① 鋼橋の長寿命化のための塗装に関する技術(13:05~15:05)

(CPD認定番号:JSCE09-0784) 50名

② 狭隘な現場で施工可能な杭基礎技術(マイクロパイル工法)

(CPD認定番号:JSCE09-0785) 50名  
(15:20~16:20)

## 問合せ先

独立行政法人土木研究所 技術推進本部

TEL:029-879-6800 FAX:029-879-6732 E-mail:suishin@pwri.go.jp

※会場へのお問い合わせは、ご遠慮頂きますようお願い致します。

## 主催

独立行政法人土木研究所

## 後援

社団法人建設コンサルタンツ協会

## 会場アクセス

会場:総評会館4階 402会議室

東京都千代田区神田駿河台3-2-11

●「東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅」「東京メトロ丸ノ内線 淡路町駅」「都営地下鉄新宿線 小川町駅」いずれも地下道を通り千代田線方面へ、B3出口より徒歩0分

●JR中央線・総武線 御茶ノ水駅 聖橋出口より徒歩5分



# 土研 新技術セミナー プログラム



土木学会認定  
CPDプログラム

会場/総評会館402会議室(4階)

13:05~15:05 鋼橋の長寿命化のための塗装に関する技術

## 序論「鋼道路橋塗装・防食便覧と長寿命化技術」

(独)土木研究所 守屋 進

鋼道路橋の長寿命化を推進するため鋼道路橋塗装・防食便覧が発刊されました。便覧の基本的な考え方と今後の展開について説明するとともに、新技術(インバイロワン工法とチタン箔工法)を紹介します。

## 新技術セミナー①「インバイロワン工法」

(独)土木研究所 守屋 進

山一化学工業(株) 臼井 明

(独)土木研究所 加藤祐哉

～環境負荷や廃棄物量を低減、コストを縮減させた鋼構造物塗膜除去技術～



### 【技術概要】

鋼橋等鋼構造物のライフサイクルコストを縮減するため、一般塗装系塗膜を耐久性に優れた重防食塗膜に塗り替える必要があります。「インバイロワン工法」は、鉛・クロム・PCBなどの有害物質を含む一般塗装系塗膜を確実・容易に除去・回収でき、作業効率・環境安全性に優れた塗膜除去工法です。技術の詳細について、塗膜除去後の再塗装に至るまでの取扱いなどを含めて紹介します。

## 新技術セミナー②「チタン箔を用いた鋼橋長寿命化技術」

(独)土木研究所 守屋 進

日鉄防食(株) 坂本宏司

(独)土木研究所 加藤祐哉

～塗膜の弱点部をチタン箔で補強する防食性向上技術～



### 【技術概要】

海上や海浜部など厳しい腐食環境に架設された鋼橋は、重防食塗装で防食されていますが、部材端部など塗料が付きにくい部位は発錆しやすく、重防食塗装の弱点となっています。本技術は、この塗装の弱点部を補強するためチタン箔を貼ることで鋼橋塗装の防食性能を長寿命化させる技術です。本技術の詳細と施工方法などについて紹介します。

15:20~16:20 狭隘な現場で施工可能な杭基礎技術  
(マイクロパイル工法)

## 序論「狭隘な現場で施工可能な杭基礎技術(マイクロパイル工法)」

(株)フジタ 相良昌男

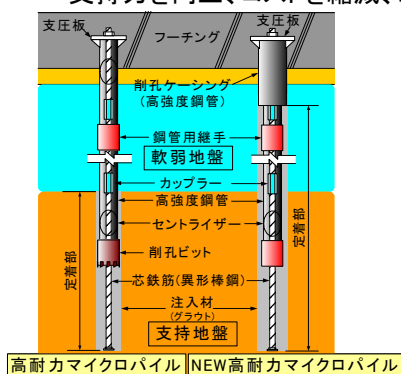
一般に、杭径300mm以下の小口径杭は、総称してマイクロパイルと呼ばれています。マイクロパイルは、我が国では主に地盤補強として用いられてきましたが、兵庫県南部地震以降、基礎の耐震補強用として注目され、研究・開発がなされました。ここでは、狭隘な現場でも施工可能なマイクロパイル工法の歴史と概論について紹介します。

## 新技術セミナー③「NEW高耐力マイクロパイル工法」

(株)フジタ 相良昌男

(独)土木研究所 加藤祐哉

～支持力を向上、コストを縮減、工期を短縮させた杭基礎技術～



### 【技術概要】

NEW 高耐力マイクロパイル(NEW-HMP: NEW High Capacity Micropile) は、既設基礎の耐震補強工事で多くの実績を有する高耐力マイクロパイル(HMP)を改善・改良したものであり、軟弱層での周面摩擦を確保し支持力の増大を可能にした杭です。これにより、NEW-HMP は、HMP の有する狭隘な場所での施工が可能などの利点を生かしながら、HMPに比べて杭本数を減らすなど、工期短縮・コストダウンが可能となります。本技術の詳細と施工方法などについて紹介します。